



～JET活用の巻～

JETプログラムのさらなるご活用を！

(一財)自治体国際化協会JETプログラム事業部

JETプログラムは、地方自治体が外国青年を招致する国際交流事業です。総務省、外務省、文部科学省とクリアが運営に協力しており、クリアでは、JETプログラム参加者の配置やオリエンテーション、研修、任用団体や参加者へのサポートなどを行っています。今回は、オリエンテーションや研修についてご紹介します。

研修・オリエンテーションの体系

研修・オリエンテーションとして、主に3つに分類されます。

①来日直後オリエンテーション

新規参加者や職種変更者に対し、日本での生活および勤務に役立つ知識、技術および情報などを提供し、生活不安の解消に努めるとともに、本事業の趣旨および任務に対する理解を深めることを目的としています。

②中間研修および指導力等向上研修

年度途中には、外国語指導助手 (ALT)、国際交流員 (CIR)、スポーツ国際交流員 (SEA)、それぞれの職種に分かれて、フォローアップ研修を行っています。これについては、後ほど詳しくご紹介します。

③終了前研修

2月に、終了予定者向けに、JETプログラム参加者としての経験を活かし、自身のキャリアでの活躍や国際交流への貢献につなげることでできる情報提供を行っています。2013年度より、研修会場において、キャリアフェアを実施し、終了者の日本国内での活躍の促進にも力を入れています。

そのほか、参加者の日本語能力向上支援のために日本語講座の提供、ALTの英語教授法 (TEFL) 取得の支援などを行っています。

中間研修と指導力等向上研修 (SDC)

ここで、年度途中で行う研修について、それぞれの職種ごとにご紹介いたします。

①CIR

CIRとは、高い日本語能力を活かし、自治体において主に国際交流活動に従事する青年たちです。近年、国際交流活動の幅が広がっており、地元住民に対しての外国語教室の開催、外国からの訪問客の接遇、観光客誘致や海外販路拡大などの経済交流事業に至るまでさまざまなところでCIRが活躍しています。

昨年度のCIR中間研修は、12月に東京ベイ幕張ホテルで3日間かけて開催されました。通訳や翻訳といったCIRに求められる基本的な技術や知識を学ぶ分科会をはじめ、外部講師などによるウェブサイトやSNSを活用した情報発信方法や効果的な広報の仕方など、商工観光の分野でも役立つ内容の分科会も盛り込みました。また、国際化についてのさらなる理解を深め、CIRとの円滑な業務遂行を

図ることを目的に、今年度から日本人担当者にも参加していただきました。日本人担当者同士の情報交換の場としても有益であると好評のため、今後とも参加を呼びかけていく予定です。



CIR中間研修・基調講演



CIR中間研修・グループディスカッション

②SEA

SEAは母国において特定種目の選手や指導者であり、母国で指導を行ってきた経験豊富な青年たちです。そのプロたちが、自治体の要望に応じ、日本各地に配置され、配属先で全国大会などの優勝を目指す学校や若手選手育成を図る町のコーチとして活躍しています。

昨年度のSEA中間研修は、11月に国立スポーツ科学センターで2日間かけて開催されました。SEAが指導する技能は、バドミントンやボクシング、陸上競技など多岐にわたりますが、スポーツに関する知識やメンタルトレーニングなどの共通課題について、専門家による講演や実技講習を行いました。また、スポーツを活用した地域活性化の取り組みや国際理解・多文化共生についてのワークショップも織り込みました。さらには、参加者による事例発表の場を設けたことで、それぞれの取り組みについて活発な情報交換が行われ、実りある研修となりました。2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向け、SEAの活動を引き続きサポートし、中間研修をさらに充実させていきます。



SEA中間研修・参加者による事例発表



SEA中間研修・実技講習

③ALT

ALTについては、都道府県ごとにSDCを実施していただいています。この研修は、ALTのみならず日本人外国語担当教員（JTE）などが参加するものであり、職務遂行に必要な知識や指導技術などを習得することなどを目的としています。クレアでは、依頼に応じて、SDCに職員を派遣し、講演をしています。昨年度、この講演内容が大きく変わりました。

た。講演を通して何を伝えたいのか、SDCチームの講演にかける熱い思いを少しだけ紹介します。

「普通のものを作らない」これが唯一のミッションであった。

「実際に日本人と外国人が一緒に働く上で起こり得るトラブルを示し、解決策を探る」という内容とすることがチームでブレインストーミングを行った結果であった。また、クレアが行う研修のほとんどはJET参加者向けのものであるが、彼らと一緒に働くJTEに対して異文化コミュニケーションの研修を行うことも必要ではないかという意見も出た。

こうして我々は、形式にこだわった講義らしい講義を捨て、コントを通してALTとJTEのより良いコミュニケーションを考える「コントコミュニケーション」を作り出した。

結果は、予想以上の大反響であり、次年度の依頼も次々といただいた。チーム内ではさらに改良を重ねて全国を忙しく回り歩き、2014年度は12か所で行った。

「現状に満足してはいけない。僕らでしかできない、もっと素晴らしい物ができるはず」SDCチームは、常にレベルアップを目指している。

このように、クレアではさまざまな研修を実施し、JETプログラム参加者の資質向上に向けたサポートを充実することで、JETプログラム全体の価値の向上を図っています。

地域国際化の推進のために

JETプログラムは、2016年度で30周年を迎えます。創設以来、6万人を超える外国青年を招致し、外国語教育の充実、地域における国際交流の推進および諸外国との相互理解の増進に大きな成果を挙げてきました。

各自治体におかれては、JETプログラム参加者を地域国際化の推進のために、積極的にご活用いただきますようお願いいたします。